

## 令和3年度 第2回 ビジネス実務学科 FD 報告

日 時：2022年3月18日(金)17:00～18:00

担当者：井戸、瀬戸、藤元

場 所：A135 教室

参加者：藺森、瀬戸、矢澤、越野、坂上、廣瀬、井戸、若月、丹羽、藤元

### <テーマ>

各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPA の分布結果から学習成果の達成状況进行评估し査定（アセスメント）する

### (内容)

初めに井戸先生から、2021 年度後期成績の分析結果が次のように示された。

平均 GPA の高い科目（3 を超える）は、前期 14 科目から後期 10 科目に減少しており、平均 GPA も前期 2.48 から 後期 2.43 に下がっている。また、平均 GPA の低い科目（2 を超えない）は、前期 10 科目から後期 12 科目に増えている。この要因としては、後期は前期に比べて応用科目が多くなるためではないかということである。



履修者数と GPA の関係について、近似線の傾きは前期-0.0037 から後期-0.0033 といくらか上昇し、履修者数による GPA の影響はいくらか減少した。

成績「秀」の割合と履修者数の関係は、履修者数が増えるに従って減少している傾向がある。成績「優」の割合と履修者数の関係は、近似線の傾きが前期-0.04 から後期-0.008 となり、履修者数に関係なくほぼ 35% くらいの科目が多くなっている。成績「良」と「可」の割合と履修者数の関係は、履修者数が増えるに従って増加している傾向がある。

GPA と成績の関係は、GPA が高い学生ほど、成績「秀」と「優」の取得割合が高くなり、「良」と「可」の取得割合が低くなっている。

続いて科目別の成績分布一覧表が示された。特に「秀」の割合が著しく高い科目については、今後合同会議等を通して改善できるように全教員に働きかけが必要であることが確認された。

次に瀬戸先生から、GPA の取り扱いに関して、卒業要件や退学勧告、成績優秀者表彰、履修数制限緩和などについて他大学例と本学の現状を比較した資料が示された。

本学のキャップ制では、1 年間 48 単位の履修制限が決められている。そこで、本学と偏差値が 44～47 でほぼ同等レベルの桜美林大学を参考に検討した。桜美林大学では、通常の履修登録単位数の上限は 20 単位であるが、前学期の GPA が 3.0 以上であればその学期は 24 単位とする一方で、成績不振により 2.0

未満となった場合、その上限を 16 単位にするというキャップ制度を設けている。これは、成績の優秀な学生にはさらに早く進んでもらい、成績の不振な学生には履修登録単位数を絞り、集中して学習してもらう、という目的で設定されているとのこと。本学においても成績不振な学生の対応として検討してはどうかという提案があった。また、通年で GPA が 3.0 以上であれば卒業時に成績優秀者と表彰することも併せて検討してもらいたいと提案があり、今後の継続課題とすることに決定した。

続いて 2020 年度入学生について、コース別に 1 年前期後期・2 年前期後期の 4 期について各学生の GPA 一覧が示された。さらに、GPA を 0.5 刻みに人数や割合を示した棒グラフも示された。結果は、フードビジネスコースを除いて他 3 コースは、4 期合計で GPA2.5～2.99 の取得者は最も多く、次は 2.0～2.49 となっている。フードビジネスは 9 名で数が少ないこともあり、2.0～2.49 が最も多く、次は 3.0～3.49 の順となり他コースと異なった結果となった。また全コースにおいて、3.5～3.99 の取得者は 2 年時にかなり少ないこともわかった。